



EUへ発信する 剣道

EUの剣道は、いま Kendo in EU

剣道の世界人口は、約250万人ほどであり、日本は約170万人、EUで最も剣道人口の多いフランスでは約9000人ほどで、中国やアメリカなどに比べるとまだまだ少ないですが、年々盛んになっています。

国際剣道連盟の傘下として、**ヨーロッパ剣道連盟(EFK)**があり、EFKには40の国と地域の剣道連盟が加盟しています。EFKは三年に二回(三年に一回は世界大会)は欧州剣道選手権大会を開催しており、部門は男子団体・個人、女子団体・個人ジュニア団体・個人の六部門で、参加者は300名以上となっています。(※1)フィンランドやフランスなどには日本の警察官から指導者を派遣したりしています。(※2)

※1 ヨーロッパ剣道連盟 <http://www.efk-eu.com/>

※2 読売新聞大阪朝刊2016年2月5日発行



↑ インペリアルカレッジにて

体験記

My experiences in Europe

私は、今年の二月に、本学剣道部の活動の一環として、**イギリス、ラトヴィア、リトアニア**で各国の大学の剣道部を中心に稽古をしました。

ラトヴィア、リトアニアは比較的小さい国なので、人数こそ多くないですが、30~40人ほどの様々な年代の方がいます。ラトヴィアのラトヴィア大学、リトアニアのヴェリニユス大学のOBの方たちは、日本に留学経験がある方もいて、彼らが学生を指導、活動の援助をしています。

イギリスでは、インペリアルカレッジの学生と稽古をしました。イギリスでは約1000人ほどの剣道人口がおり、ロンドン市内の大学でも、部員は少ないながら剣道部がある大学もいくつかあります。

この三国は、昨年日本で行われた世界選手権にも出場していて、本学の道場に代表選手が来校したこともあります。

彼らと話すとも日本人以上に剣道を大切に思ってくれていることがわかり、自分の未熟さを感じました。

剣道用品はインターネットで中国などから購入するそうです。



↑ リトアニアにて

剣道とは About Kendo

元来、剣術の訓練として木刀を用いていたが、殺人剣としての剣術が徐々に必要なくなり、また練習の危険性を下げる狙いから竹刀と防具を用いた現代剣道が発達しました。

剣道は、精神の修養を目的とした武道です。現代では、ややスポーツ的な要素が出始めていますが、得点をとるスポーツとは一線を画した世界観があります。

剣道では、メン、コテ、ドウ、ツキの四つの技が基本にあり、試合は、有効だとみなされた「一本」を奪い合い、たいていの試合では三本勝負で二本先取で勝ちとなります。

剣道人口は年々減っていて、若い世代に広めようとするイベントなどもあります。年に一回ある全日本選手権はNHKでも放映されたりもしているので、ぜひチェックしてみてください。

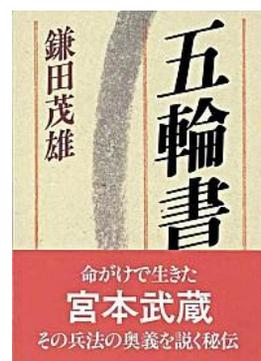


お薦め本の紹介 My recommended book

五輪書 / 宮本武蔵著；鎌田茂雄全訳注 (1986 講談社)

私は、剣道に関する書籍として、宮本武蔵の『五輪書』をお勧めします。本書は、剣術に関するだけでなく、現代の剣道に通じる体の使い方や、実生活においての心構えを説いており、とても学ぶところがあります。

本書では訳や解説がわかりやすく読みやすいのでお勧めです。



図書館所蔵：
本館2階[0800:34:735]

自己紹介



越田大樹(こしだだいじゅ)

法学部3年

剣道歴13年、剣道4段、柔道初段

趣味は漫画で、好きな漫画は『六三四の剣』